

大杉谷国有林からの手紙

26通目 ～計画的な森林整備を進めるために～

大寒の初候、「款冬華（ふきのはなさく）の頃となりましたが、皆さん、今年も「大杉谷からの手紙」をよろしくお願いします。

現在、大杉谷国有林は、積雪のため、大台林道が通行できないので、間伐などの森林整備も小休止となっています。幸い予定していた事業は、積雪前にほぼ完了していたので、今後、雪の状態を見ながら最後の仕上げを行う予定です。



大台ヶ原に広がる樹氷 (大杉谷国有林におけるニホンジカ森林被害対策指針実施委員会森正禰委員提供)

このように、山の仕事は、積雪や台風などの影響を受けやすいので、現場を預かる森林官として、「毎年、計画どおりの森林整備を実施するのは難しいな」と実感しています。そこで、今回は、森林整備をどのように計画し、実行しているかをご紹介します。

今年度、大杉谷国有林では、水源林としての森林整備を目的に間伐や未立木地（シカの食害によって樹木がなくなってしまった箇所）の植生回復、シカ被害対策などの事業に取り組んでいます。

以前、この手紙で紹介しましたが、私たちは、5年ごとに森林計画を策定し、森林が持つ水源涵養などの機能を高度に発揮させるために、この5年間において、どの場所で、どのくらいの間伐などを行うのかを決め、その計画に基づいて、森林の整備を行っています。



森林計画に基づき間伐を実施したスギ林 (29年11月撮影)

その基本となるのが、「施業実施計画図」と「森林調査簿」です。森林調査簿には、林小班（森林管理のため、字界や尾根・沢等の天然地形により設定された区画）ごとの面積や生育している樹種や林齢などの情報のほか、地質、施業計画、保安林などの法令指定等が掲載されています。また、「林班沿革簿」として、いつ、どんな樹種を何本植えた

のか、いつ、下刈、除伐、間伐などの保育をやったのかという施業の履歴もこの林小班毎にデータとして整理しています。

これらの林小班ごとのデータは、貴重な国有林の足跡であり、森林整備の基礎となるものですが、森林は、常に変化していますので、最新のデータに更新していく必要があります。

このため、森林計画の策定に当たっては、現場調査を行い、樹木の生育状況を確認したり、崩壊している場所がないかなど日頃から国有林をよく見て、情報を集め、関係者で様々な意見を交わしながら、施業実施計画図や森林調査簿などの内容を修正しています。



森林調査簿を更新するための天然更新箇所での現地調査

なお、現地調査に当たっては、事前に衛星画像などで全体を確認し、重点的に調査を行う場所を選定したり、崩壊地などで人がいけない場所については、ドローンを活用して必要な情報を収集するなど新しい手法も取り入れています。

このように平成31年4月から始まる新しい森林計画の策定作業を進めていますが、国有林を取り巻く社会情勢は、その時代ごとに変わります。私たちは、様々なニーズに応えられるよう、どのような国有林にしていくのか、その目標に向かってこの5年間、何をすべきか、みんなで知恵をしぼっているところです。

また、大杉谷国有林では、植生回復事業やシカ捕獲事業において、多くの専門家のご意見を踏まえ、先駆的な取組も行っています。



表土流出を防止するために28年度に植栽した箇所(29年9月撮影)

今後、これらの取組の検証を進め、その成果を森林計画に反映させ、計画的に森林整備を進め、この素晴らしい大杉谷国有林を未来に引き継いでいきたいと考えています。

私事ですが、50代半ばとなり、体力的には無理はききませんが、これまでの経験を活かし、全力で頑張っていきますので、皆さん、今年も、よろしくお願いします。

(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)